教育長賞　ぼくも平和をつくる一人

泉小学校　5年　袴田（はかまだ）　悠陽（ゆうひ）

家族とうどん屋に行ったときのことだ。うどんを食べていると、男の人が隣の席に倒れた人を運んできた。だいじょうぶかなと心配でじっと見ていた。すると、うどん屋の店員がすぐに状況に気付き、男の人に、救急車を呼ぶか尋ねていた。救急車が来るまで、男の人は倒れた人の足を高くあげ、その人に声をかけていた。後から気付いたが、その男の人は倒れた人の家族ではなかったようだ。ふと見ると、男の人の奥さんも赤ちゃんを抱えていて、赤ちゃんが泣かないようにしていた。助けた人達は倒れた人のことを知らないのに、状況に応じて動いていたのですごいと思った。

ぼくはサッカーを習っている。サッカーでは、ポジションを決め、周りの状況を見て自分で判断し、声をかけあったり、カバーしあったりしてチームみんなで試合をしている。ミスをしてもその人を責めず、

「ドンマイ。切り替えよう。」

のような声をかける。だから、ぼくはこのチームで安心してプレーできるし、みんなのことが大好きだ。相手がこけてしまったときには、立ち上がらせるために手を貸したり、

「ごめんね。」

と声をかけたりする。ぼくも相手にそうされたときにはうれしいし、一生懸命プレーしようと思う。

平和の反対は争いで、戦争は争いが大きくなったものだと思う。戦争というと遠いことのように感じるけれど、普段の生活から、周りを見て行動し声をかけ合うことで「安心」という心の平和につながるとうどん屋でのことをきっかけに気づくことができた。サッカーのときだけではなく、あのうどん屋のときのように、相手が誰であろうと声をかけたり、協力したりして安心で平和な生活をつくっていきたい。